



帯西自然再発見!

校庭の木々の葉が赤や黄色に色づいています。学校のもみじの葉も真っ赤になっていました。この「もみじ」とは木の葉が色づくことをいいますが、元々は草木染めで色を出すときに揉み出すことが語源になっているそうです。「もみじ」を代表するのはカエデ類です。カエデとは葉の形がカエルの手に似ていることからついた名前です。

さて、この季節の移ろいに目を向けて、校庭をカメラ片手に眺めてみると学校の花や植物たちの「いのち」を感じることができました。

右図一番上の写真は、「わくわく通信77号」で紹介したときは枝の伐採をした直後でしたので、何だか寂しい枝ぶりでしたが、今では樹勢をしっかりと取り戻し、青々とした葉を付けています。

二番目の写真は、ナンキンハゼです。秋の紅葉や冬の白い「実」が美しいことから街路樹として使われ、校庭や公園などでも植えられています。後ろのイチヨウの黄葉とのコントラストが美しいです。

三番目の写真は、正門横の花壇です。「全国都市緑化くまもとフェア(くまもと花博)」で使われた花を頂く機会があり、それらを学校にたくさん植えています。これは、緑化委員会や6年生が植えてくれました。

四番目の写真は、2年生の花壇です。子供たちが植えた大根や、ビオラが勢いよく育っています。大根の美味しい季節となりますので楽しみですね。

五番目の写真は、本校のある場所で採れたザクロの実です。美味しそうに実っています。実際口にしましたが酸味と甘味のバランスが良く美味しかったです(^_^)場所を知りたい人は聞きに来てください

一番下の写真は、校舎とプレハブ等の間にぶら下がるヘチマです。少しずつ乾燥し、白いたわしになる部分が見えています。今後、大事に採り種から次年度へと命を繋ぐ予定です。

校庭を見て歩くとたくさんの「帯西ブルー」の心を感じることができました。

